

## 平成29年度 小平市立小平第十二小学校 学校評価報告書

**学校教育目標** ○明るく元気でたくましい子 ◎よく考えずんで実行する子 ○たがいになかよくする子

### 目指す学校像(ビジョン)

- 【目指す学校像】 ・子供が生き生きと力いっぱい活動する学校 ・学びの場にふさわしい教育環境の整った学校
- ・家庭地域に理解され、協力を得て信頼される学校 ・教職員が互いに高め合い、協働する学校
- 【目指す児童・生徒像】 ・かかわり合い、磨き合い、輝き合う、笑顔あふれる子供
- 【目指す教師像】 ・豊かなふれあい、確かな児童理解、きめ細やかな指導を実践する教師

### 前年度までの学校経営上の成果と課題

- ・「オリンピック・パラリンピック教育推進校・重点校」「コオーディネーション・トレーニング地域拠点校」としての取組により、オリンピックやパラリンピック、スポーツ、国際理解、ボランティアマインドへの関心が高まった。
- ・道徳・特別活動を中心とした校内研究や、道徳教育推進拠点校等の取組により、児童の自尊感情の向上を図れた。 ・基礎・基本の定着が十分でない。思考力、表現力で力に個人差がある。

|      | 具体的方策   | 第1回評価 |      | 課題と対策  | 第2回評価 |      | 学校関係者評価  | 課題と次年度以降の対策   |
|------|---|-------|------|--|-------|------|--|---|
|      |   | 努力目標  | 成果目標 |  | 努力目標  | 成果目標 |  |   |
| 学力向上 | ◆統一した授業ルールで授業を進める。                            | 4     | 2    | ・毎月1回「十二小スタンダード確認日」を設けるとともに、「十二小スタンダード」を生活指導の週目標に関連付けるなど、定期的に指導の機会を位置づけ、意識的に指導することができた。定着度が70%の学級がほとんどだが、60%未満の学級もあり、継続的に徹底していく必要がある。          | 4     | 3    | ・学校公開などでみると、学習ルールが身に付いていて、落ち着いた授業に参加している児童が多い。                             | ・ほとんどの学級が、授業ルールの定着率80%以上だった。年度当初、クラス替えがあったり担任が変わったりしても、落ち着いて学習に取り組めるように、全校共通のルールであることを児童に意識付けたい。  |
|      | ◆家庭学習の習慣化に向けて指導する。                            | 4     | 3    | ・毎学期1回の「家庭学習強化週間」の取組により、「学年×10分」以上の目安は定着した。頻繁に宿題を忘れるなど、課題のある児童には、個別に家庭と連絡を取って支援していく。   | 4     | 3    | ・ねらいを明確にした授業で、分かりやすい授業を工夫しているように思う。  | ・ほとんどの学級が、家庭学習の習慣の定着率80%以上だった。ただ、課題のある家庭もあり、継続的に連絡を取るとともに、児童へ自覚を促していく。学習する時間だけでなく、自由課題の励行など、取組の質的向上についても意識付けたい。   |
|      | ◆教室環境を整える。<br>◆児童の実態に応じて授業改善に努める。             | 3     | 3    | ・ほとんどの学級で、ホワイトボードを用いた授業を毎日している。はじめにめあてや流れを確認することにより、見通しをもち案して取り組める児童が増えた。93%の児童が「授業は分かりやすい(63%)・どちらかといえば分かりやすい(30%)」と回答している。                   | 3     | 4    | ・診断テストの合格率が上がってすばらしい。今後とも引き続き合格を目指してほしい。                                   | ・すべての学級で、ホワイトボードを用いた授業を実施した(毎日ではない学級もあり)。96%の児童が「授業は分かりやすい(68%)・どちらかといえば分かりやすい(28%)」と回答、向上している。今後も、ユニバーサルデザインに基づき、誰にでも分かりやすい授業づくりを努める。  |
|      | ◆「十二小タイム」で「東京ベーシック・ドリル」を行う。                   | 4     | 1    | ・毎学期5回、授業時数に含めない「十二小タイム」を設定し、「東京ベーシック・ドリル」の算数診断テストを取り組む。1学期はAテストで、再テストも含め一度でも満点を取った児童は39.9%だった。  | 4     | 2    | ・読書マラソンの時間が減るようだが、保護者による読み聞かせなどは継続していきたい。                                  | ・2学期はBテストで、A・B再テストも含め一度でも満点を取った児童は58.4%だった。年度末に向け、継続的に取り組み、合格率を上げていく。次年度は、「十二小タイム」を授業時数内に含める。「朝学タイム」を新設し、時間の確保を図る。  |
|      | ◆「読書マラソン」を継続的に実施する。                           | 4     | 2    | ・毎週(火)(木)各20分、「読書マラソン」の時間を保障した。読書量の達成率は、学級により異なり、半数の学級では、目標読書量を達成した児童が60%未満だった。12月までの目標値を確認させるとともに、推薦図書などを紹介していく。                              | 4     | 3    |  | ・多くの学級で、目標読書量を達成した児童が70%以上と、向上した。次年度「朝学タイム」を新設することにより、「読書マラソン」は週1回に減る。読書量の増加よりも、質的な向上にねらいをシフトしていく。バスファインダーの活用を全校の共通課題としたい。  |
| 健全育成 | ◆学級会を始めとした学級活動の充実に向けた取組を実施する。                 | 2     | 2    | ・学級会は月に1回の学級、2回の学級が半々で、1年生はまだ「十二小スタイル」導入に向け担任が進めながら、児童主導の進行を目指した。高学年は前年度までの経験の蓄積から「十二小スタイル」が定着している児童が多い。                                       | 3     | 3    | ・学校公開で学級会をみたが、子供の司会で、子供たちが自分たちで話し合いを進められていて感心した。                           | ・児童の主体的な話し合いが、進行も円滑に話し合いもより深めることができるようになってきた。議題の提案やプレゼンの方法など児童発案の工夫も見られたことも、校内研究の成果。児童アンケートでも「学級会の進め方が分かり話し合いに進んで参加している」と回答する児童が、1学期よりも増えた。                                       |
|      | ◆あいさつの響き合う学校を目指す。                             | 3     | 1    | ・毎月の「十二小あいさつ運動週間」を、5月は「月間」へと期間を拡張して実施して意識付けを図った。あいさつ運動の担当期間には挨拶しても、それ以外では挨拶されても返さないなど、なかなか定着しない。学校公開時の保護者アンケートでも挨拶の項目の評価が低い。家庭との連携を図りながら定着を図る。 | 3     | 2    | ・顔なじみになって挨拶してくれる子も増えてきたが、こちらが声を掛けても帰ってこないのは残念。けれど、これからはこちらから声を掛け続けていこうと思う。 | ・保護者アンケートで、高学年が元気に挨拶する場面など、肯定的なコメントも増えているのだが、数値評価は依然として低く、挨拶しないと感じている保護者が多い。教室の始業時の挨拶など全員での挨拶はきちんとできるが、校舎内で友達のお母さんに会ったときなどにとっさに挨拶することが苦手の様子。今後も、大人から挨拶を励行し児童が挨拶しようとする気持ちを促していきたい。 |
|      | ◆統一した学校生活ルールで指導を進める。                          | 4     | 2    | ・毎月1回「十二小スタンダード確認日」を設けるとともに、「十二小スタンダード」を生活指導の週目標に関連付けるなど、定期的に指導の機会を位置づけ、意識的に指導することができた。定着度は学級によりまちまちだが、今後も、全校の共通課題として、継続的に徹底していく。              | 4     | 3    | ・学校が子供たちにとって安心できる場所であるよう、これからも温かく見守ってほしい。                                  | ・教職員アンケートで、生活規律が定着していると思われる児童の割合は、1学期よりも上がっていて、半数の学級で「80%」の回答だった。次年度の1学期にも、生活規律が維持できるように、3学期にしっかり定着させていく。   |
|      | ◆未然防止・早期発見の取組を積極的に行う。<br>◆職員間で相談・連絡・組織的対応をする。 | 3     | 3    | ・学期1回の「ふれあい月間」で「いじめアンケート」を実施し、児童の思いを聞いた。今後も、毎朝昇降口や教室で児童を迎え入れること、休み時間も児童と共に過ごすこと、児童一人一人に声をかけるなど、教職員一人一人が、児童とのふれあいを深めることを意識して取り組んでいく。            | 3     | 3    |  | ・特別支援教育コーディネーターを中心として、組織的に支援に当たることができた。今後も、児童の困り感に寄り添ったり、一人一人の課題に対応したりする際、担任一人ではなく、学年や校内委員会、生活指導全体会・夕会などをとおして、全教職員で共通理解して進めていく。   |

|           |   |   |   |  |   |   |   |   |
|-----------|---|---|---|--|---|---|---|---|
| 体力向上      | ◆運動の励行を促し、継続的に運動に取り組む態度を育てる。  | 4 | 1 | ・ほとんどの学級で、休み時間外で遊ぶ児童の割合が「90%以上」の回答だった。5月に「十二小外遊び旬間」を設け実施した。6月に行った体力テストでは、全国平均を下回る種目が多く、特に「反復横とび」「立ち幅とび」が低い傾向にあった。  | 3 | 1 | ・外遊びや体力向上旬間などを、これからも続けてほしい。苦手種目に焦点を当て、トレーニングする方策もよいと思う。体力の低下を食い止められたらと思う。   | ・小・中連携の取組の一環として、五中地区は「握力」の向上を図ることとなった。十二小の「握力」の結果は、どの学年も、男女共に、市・都・全国の平均を下回っている。3月に「握力」の測定を行うこととし、それまでに「ぶら下がる運動」を積極的に取り入れていく。  |
|           | ◆体育授業やオリンピック・パラリンピック教育等の充実を図る。  | 3 | 3 | ・ほとんどの学級で、月に1回以上はコーディネーショントレーニングに取り組んだ。<br>・児童アンケートでは、運動に対して肯定的な回答が多く、「運動やスポーツが好き(72%)、どちらかといえば好き(17%)」「体育の授業が好き(73%)、どちらかといえば好き(17%)」だった。好きを得意につなげたい。                             | 3 | 4 | ・運動会の準備運動にも、コーディネーショントレーニングを取り入れて実施した。<br>・児童アンケートでは、「運動やスポーツが好き(70%)、どちらかといえば好き(21%)」「体育の授業が好き(69%)、どちらかといえば好き(22%)」だった。今後は、児童が意欲的に取り組み、体力向上に有効な運動メニューなどを検討していく必要がある。              | ・運動会の準備運動にも、コーディネーショントレーニングを取り入れて実施した。<br>・児童アンケートでは、「運動やスポーツが好き(70%)、どちらかといえば好き(21%)」「体育の授業が好き(69%)、どちらかといえば好き(22%)」だった。今後は、児童が意欲的に取り組み、体力向上に有効な運動メニューなどを検討していく必要がある。              |
| 特色ある学校づくり | *地域の人材・環境を生かす(福祉・環境)。*オリンピック・パラリンピック教育・国際理解教育を進める。<br>*ボランティアマインド育成の取組を進める。 | 1 | 3 | ・計画を立てている段階で、まだ実施していないプログラムがほとんどだった。ゲストティーチャーやボランティアなど、連携や協力を要請する場合は、早めに計画を立ててお願いすることが大切である。<br>・児童アンケートでは、福祉・環境・国際理解・伝統文化などの学習活動について、肯定的な回答が多かった。中でも「動物や植物、環境について」楽しいと答えた児童が多かった。 | 2 | 3 | ・来年度は開校50周年。節目の年を迎えるにあたって、十二小や地域のよさに改めて気付いてほしい。<br>・けやき学級との交流が盛んなのがよい。昨年度からさらに仲が深まっている様子で素晴らしい。   | ・地域の人材・環境を生かした取組を、2学期に実施した学級は、全校の約半数だった。今後に計画している学級もあり、大半の学級が実施する見込み。今後は、一つ一つの活動にじっくり取り組んでいかれるように、活動の数を精選し、重点化を図る。児童の興味・関心を生かしつつ、児童が自ら疑問や課題を見出し、探究していく課程を大切にしたいカリキュラムにしていきたい。       |
|           | ◆けやき学級と通常学級との交流を進め、相互理解を深める。  | 4 | 3 | ・毎週(木)の給食(最終週は掃除と遊びも)、けやき学級と通常の学級の児童が共に過ごす。学年の学習や行事、たてわり活動など、いろいろな場面で交流の機会を設けている。<br>・児童アンケートでは、「けやき学級の友達と仲良くしている(53%)」と回答した児童の割合は「たまにしている(28%)」を含めると、81%だった。昨年度よりさらに上昇した。         | 4 | 3 | ・運動会で、学年種目にはけやき学級の児童が通常の学級と合同で行った。助け合い支え合う場面が多くみられた。<br>・児童アンケートでは、「けやき学級の友達と仲良くしている(50%)」と回答した児童の割合は「たまにしている(38%)」を含めると、88%だった。1学期をさらに上昇した。  | ・運動会で、学年種目にはけやき学級の児童が通常の学級と合同で行った。助け合い支え合う場面が多くみられた。<br>・児童アンケートでは、「けやき学級の友達と仲良くしている(50%)」と回答した児童の割合は「たまにしている(38%)」を含めると、88%だった。1学期をさらに上昇した。  |
|           | ◆保護者・地域へ発信する情報の質を高め、回数を増やす。<br>◆保護者アンケートの提出を呼びかける。                          | 2 | 3 | ・学校ホームページの更新の頻度は、学年や分掌によりまちまちであった。まずは、どの学年も月に1～2回は更新することを目指したい。<br>・5月「親子で体験・土曜授業」の保護者アンケートの提出枚数は、269枚で児童数の約57%だった。いただいたご意見・ご感想に、学校からのコメントを添えて、ご家庭に配布した。                           | 2 | 2 | ・学校ホームページの更新の頻度は、月に2回以上更新する学年も増えてきた。学校の様子をご家庭にお伝えできるよう、折を見て更新していく。<br>・保護者アンケートの提出枚数は、7月52%、10月40%だった。枚数は減ったものの、保護者アンケートをまとめた報告を出すようになって、学校の教育活動についてご理解いただき、肯定的なご意見・ご感想をいただく割合が増えた。 | ・学校ホームページの更新の頻度は、月に2回以上更新する学年も増えてきた。学校の様子をご家庭にお伝えできるよう、折を見て更新していく。<br>・保護者アンケートの提出枚数は、7月52%、10月40%だった。枚数は減ったものの、保護者アンケートをまとめた報告を出すようになって、学校の教育活動についてご理解いただき、肯定的なご意見・ご感想をいただく割合が増えた。 |